

## 佐賀県酪農の経営的分析

八木 義隆

(佐賀県農業試験場)

YATSUGI, Y.

## An Analysis on the Dairy Farming in Saga Prefecture.

佐賀県に於ける酪農は昭和38年を頂点として小規模酪農家の脱落がはじまり、42年には38年の74%まで戸数が減少しているが、乳牛頭数の減少は殆んど見られず、酪農家1戸当りの飼養頭数は次第に増加の傾向にあり、規模拡大の方向に進みつつある。しかしながら酪農経営の状況を見れば農家間の差が大きく、なかには脱落の危険さえはらんでいる農家も決して少なくない、従って現在多頭化している農家は果してどういう技術水準にあり、どういう問題を内包しているかについて、中央畜産会が示している経営指標と対比しながら若干の検討を加えたのでその概要について報告する。

まず飼養管理技術についてみれば、初回の種付月令は調査農家10戸平均18.9ヶ月で、指標の16~18ヶ月と比較すればやや長く、調査農家10戸中6戸が指標を大きく上回っている。一般に搾乳農家では仔牛の育成はおろそかにされがちで、生育が悪く、初回の種付がおくれ育成技術は決して高いとは云えない。また繁殖状況についてみても、種付回数は平均3、2回、分娩間隔は13.9ヶ月で半数の農家が指標を上回り、繁殖状況も必ずしもよくない。したがって産乳量についてみても平均4902kgで指標の5400kgと比較すればまだまだほど遠い現状にある。

つぎに飼料の給与状況についてみれば、一般に乳飼比は30%以内にとどめることが経営上必要とされ、これより見れば4902kgの乳量では濃厚飼料の給与量は2000kg以内にとどめることが必要となりその残りの不足養分量を自然飼料でおぎなうためには20,000kg内外の粗飼料が必要になる。しかしながら飼料の給与状況をみれば、搾乳牛1頭当り給与量は濃厚飼料2240kg、粗飼料17,570kgで濃厚飼料の給与量が多過ぎる反面、粗飼料は不足ぎみで乳量の少ない農家ほどこの傾向は強まっている。したがって乳飼比を

みても42%で非常に高く、また牛乳1kg生産するに要する養分量も乳飼比の高い農家ほど多くなっている。

一般に牛乳1kg生産するに要する養分量は、DCP 0.071kg、TDN 0.65kgが適当だとされているが、調査農家の場合DCPは0.093kg、TDNは0.093kg、TDNは0.645kgで、とくにDCPの利用効率の低さがめだっている。

また飼料の生産状況についてみれば、10a当り飼料の生産量は5,470kgで指標の8,000kgと比較すれば非常に少なく、したがって飼料作物1kg当りの生産原価も平均1.74円で、指標の1.5円と比較すれば1kg当り2.4円高く、収量の少ない農家ほど生産原価は一層高くなっている。また全体的に見て生産原価が高い農家ほど栽培労働時間が多い傾向が見られ飼料生産技術水準もまだまだ低い。

酪農の収益性についてみれば、酪農所得は1日当り平均1,637円、成牛1頭当り90,969円で大体指標と同一水準にあり、また成牛1頭当りの純益も59,149円で殆んど指標と変わらない。しかしながら農家個々についてみればこれらは農家間の差が非常に大きく、指標を中心として大きく上下に分かれ、最高最低では2~5倍の差が見られる。また所得率は平均35.7%で指標の41.4%より5.7%低く、農家間の差も大きい。つまり佐賀県ではこれらの収益の低い農家が次第に脱落し、収益の高い農家がこれを吸収していわゆる規模拡大が行なわれている場合が多いわけである。

総資本の回転率についてみれば、一般に酪農では年間1回転以上が必要だとされているが、調査農家の場合総資本回転率は82.2%で一般に低く、また固定資産の回転率も123.7%で指標の150%を大きく下回っており、それだけ資本の固定化がひどく規模

に対して大きな資本規模を必要としている。また総資本利益率は19.1%で指標の20%以上と比較して大差は見られないが、前述の酪農収益と同様農家間の差が大きく、収益が多い農家ほど総資本利益率も高い傾向が見られる。売上高利益率は22.9%（指標30%以上）で売上高に対して利益は一般に少ない。

さらに經營の安定性について資本構成の面から検討すれば、一般に酪農では成牛1頭当りの固定資産額は20万円以内にとどめることが經營上望ましいとされているが、調査農家では1頭当り平均222,637円で多い農家では29万円にも及び、また成牛1頭当りの流動資産の割合を見れば、一般に固定資産は総資本中65%以内にとどめることが經營上望ましいとされているが、ここでは69.2%をしめ総資本中にしめる固定資産の割合は大幅高くなっている。つまり固定資産への投下額が多すぎるため、それだけ資本が固定化して資本回転率の向上を規制し、ひいては資本規模の拡大を制約しているわけである。しかしながらこのように資本投下の面でいろいろ問題があるにもかかわらず、このことがあまり經營に悪影響をおよぼしていないのは、自己資本比率が平均83.9%で非常に高く、したがって固定比率が86.1%で非常に低いことに起因している。つまり全体的に見て資本の投下方法にはいろいろな問題があるが、しかし自己資本率が高いことによってそれらの欠点がおぎなわれている感が強い。

以上佐賀県に於ける一般的な酪農家の經營状況とその水準について經營指標と対比しながら検討を加えたが、牛乳生産費調査に見られる如く、牛乳1kg当りの生産費は43.1円で全国平均の36.1円と比較す

れば非常に高く、まだまだ經營技術水準は決して高いとは云えない、したがってこれらについて今後如何に改善し經營技術水準を引き上げていくか、大いに検討しなければならない。

	項 目	平 均	經營指標
經營概況	經營耕地面積	131.1	
	労働力	2.6	
	育成牛	5.7	
	育成牛	1.4	
飼養管理	初産種付時の月令	18.9	16 ~ 18
	種付回数	3.2	2
	分娩間隔	13.9	13
	成牛1頭当り産乳量	4,902	5,400
	濃厚飼料給与量	2,240	2,000
	粗飼料給与量	18,575	20,000
飼料生産	飼料管理労働時間	321	260
	10 a 当り飼料作物生産量	5,470	8,000
	飼料作物 1kg 当り費用価	1.74	1.5
	飼料作 10 a 当り労働時間	36.0	40
	乳 飼 比	42.0	30
収益性	1日(8時間)当り所得	1,637	1,650
	成牛1頭当り所得	90,969	100,000
	純利益	59,149	60,000
	所得率	35.7	41.4
	総資本回転率	82.2	100以上
	固定資産回転率	123.7	150 "
	総資本利益率	19.1	20 "
安定性	売上高 "	22.9	30 "
	自己資本比率	83.9	30 以上
	固定資産構成比率	69.2	65 以下
	固定比率	86.1	140 "